



こどものやけどに注意!!

小さなこどもは好奇心のかたまりです。身のまわりにあるものすべてが興味の対象、それが危険なものなのかわからずに、手で触って口（くち）に入れて確認します。

熱を伴うものがあるところでは、子供が火傷（やけど）をする危険性があるということを十分に認識しておかなければいけません。

日常生活のなかでは、ストーブ、ポットはもちろん…



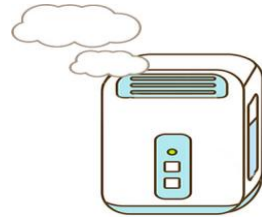
ヘアアイロン



アイロン



炊飯器



加湿器



アロマポット



湯たんぽ

など…

◆ こどもの火傷の特徴は？

こどもの皮膚は薄いので、同じ温度でもおとなに比べて火傷の程度が深くなりやすいのです。

蒸気によるやけどは熱湯よりも高温ですし、アイロンやヘアアイロンは180～200℃までになるので、より深い火傷を負ってしまいます。

手指に深い火傷を負ってしまうと、火傷が治った後も皮膚の『ひきつれ』をおこして関節が曲げにくくなってしまうこともあります。

◆ 火傷をしてしまったら？

すぐに冷やすことで火傷が深く進行するのを防ぐことができ、痛みも和らぎます。

清潔なハンカチで患部を覆ってその上から流水で冷やすか、洗面器に張った氷水の中に15分～30分程度患部を入れて冷やした後、ガーゼもしくは清潔な乾いたタオルで覆い、その上からアイスノンなどで冷やしながらか病院へ行きましょう。（アイスノンを直接皮膚に当てて長時間冷やしすぎると、逆に凍傷となる危険があります。）

衣服を着ている部分に火傷を負った場合は、衣服の上から冷やしましょう。（無理に脱がせると火傷の皮膚も一緒に剥がれてしまう可能性があります。）

水ぶくれができた場合は絶対に自分でつぶさないようにしましょう。

◆ 日頃から注意すること

おとなは危険とわかっていますが、こどもは危険がわかりません。

熱を伴うものは、絶対にこどもの手の届かないところに置くよう習慣づけましょう。

- ・アイロンやヘアアイロンは、使用中、使用後も必ずこどもの手の届かない高いところに置き、落ちてこないように注意しましょう。
- ・ポットや炊飯器、加湿器など蒸気が出るものは、吹き出し口に手が届かないように気をつけましょう。
- ・湯たんぽや使い捨てカイロは、こどもは大人に比べて感覚が鈍く低温やけどを起こしやすいので注意しましょう。



わからないことがございましたら、
お気軽にご相談ください。

